

揺れ動く日本インディ開催、その影に またぞろ出て来たFISAの強権発動

4回を迎えたインターTEC、第1、2回大会は“空飛ぶレンガ”ことボルボ240の速さに驚かされ、第3回大会では“黒い弾丸”テキサコ・シエラの完璧なまでのチーム体制に舌を巻いた。

この間、国内のツーリングカーレースは、エントラント、そして観客動員数を確実に増やし、いまやレースとしての地盤を固めてきた。

'87シーズン、インターTECは世界ツーリングカー選手権戦の一戦として注目を浴びながらも、'88シーズンは世界選手権をFISAが廃止。おかげで今回のインターTECは、海外からの参加はわずか3チーム。どうなることやらと心配したものの、ツーリングカーの人気は衰えず、前年比8パーセント増の6万8700人の大観客を富士スピードウェイに集めることができた。これは取りも直さずオーガナイザーの努力と考える次第だ。まさに“持続こそ力なり”である。

このようなオーガナイザーの努力を知ってか知らずか、モータースポーツを司るFISA（国際自動車スポーツ連盟）は、'88年度の世界ツーリングカー選手権を廃止したばかりか、'89シーズン以降は、ETC（ヨーロッパ・ツーリングカー選手権）も廃止しようとしている。

加えて、WSPC（世界スポーツプロト

タイプ選手権）においても、'91年以降は、使用エンジンをノーマルアスピレーション3500ccに一本化、また、'89年以降はWSPC戦の参加に関しては、シリーズ全戦に出場できる者に限ると規定変更しようとしている。

ともにFISAの決定によるものだが、その根底には“レースの最高峰はF1”“F1こそ全自動車メーカーが出場すべきもの”“あらゆるレースはF1を盛り上げるためのサポート・イベント”といったJ.M.パレストルFISA会長、B.エクレストン同副会長の考えがそこにある。

こうしたFISAの方針が、全世界的レベルで見て、モータースポーツの発展に寄与するものか、否か、といった判断は何十年かのちに回顧した時点でくださるものといえるが、現時点ではFISAの発表した各種規定の影で苦しい立場に立たされている者はあまりに多い。

それはインターTECを真の国際レベルのイベントに育成した主催者であり、ル・マンと国内戦を主舞台として戦い名声を上げようと努力してきた耐久レース出場チーム（メーカー）であり、ETC戦を追い続けてきたヨーロッパの強豪チームであろう。

そんな折、出てきたのは“日本インディ開催まかりならぬ”というFISAの通達

である。それによるとCART/PPGインディカー戦はアメリカ国内のレース、それを海外（日本）で行なうことはFISAは認めないとし、JAFに強力なプレッシャーをかけた。FISAあつてのJAF、FISA公認の富士スピードウェイは、たとえ日本インディのためにサーキットを提供したくとも、FISA公認の差し取めを食らっては、今後ほとんどのレース開催もできぬ。加えて、日本インディにオフィシャルとして参加したい人でも、JAF公認審判員の資格剥奪といった処分を考えれば、手助けもできない。

つまり、日本インディは興業として成立させることはできても、サーキット、そしてオフィシャルの協力を得られず、机上の空論に終わろうとしている。

WSPCに手枷、足枷、ETCを踏み潰し、ファン期待のインディ日本進出を阻止しようとするFISA。

こんな独裁主義的統括は、どの国の政治を見ても見あたらない。そうした不満を感じながらもFISAの決定に身を委ねなければならない日本のモータースポーツ界。もはや世紀末。あなたはそう思いませんか。（本誌編集長：熊谷 隆）



'88シーズンも混戦区だったKP81レース。



'88シーズンが最後となるSA22C型RX-7レース。



富士スピードウェイ・ファイナル



「ロータリー・エンジンは壊れないものと思っていたから、'88シーズン結核に勝ち、そして最終戦にも勝ったRX-7クラスの福原は、2戦目エントリ―本変速を経ての中盤、エンジン不調を信じないまま苦しい戦いを続けた。そして最終戦まじにどうもあかしのオーバーホール。万全の体制で優勝を飾った。「予選で0.5秒地の人より速かったから、リスタートのついでにいい感じに思っていました」とその通りの展開だった。



エンジンの基本的な調整はすべて本をみての独学。タイヤ屋さんの片腕をかりて天気と相談しながらヘッドを開けだりしてオーバーホールを続けてきたバルサー・ツインカム・クラス優勝の佐藤。「1回だけ時調がなくエンジンが動き悪く、コースアウトになりリタイア。シーズンとしては、あれが残念。」



KPレース2連勝に思わず間隙をつきあげた菊池。「水温はあがってくるし苦しかった後半、最終ラップの最終コーナーで出られるかなーと思っただけどうまく2台のスリッパが利いたように、ストレートが伸びずに苦しかったようです。」

アッピゴコロ大切に

プラモデル R/Cカー ミニチュアカー HOスロットカー(全長25mサーキット常設)

Model Car Shop MonoPost
☎045-942-0501
横浜市緑区見花山31-4 アビタシオン市ヶ尾1F
■OPEN-AM11:00~PM8:00 ■定休月曜



SEIKEN DOT 5のご用命・お問い合わせは

■東京自動車株式会社
〒044(789)692440
神奈川県横浜市宮前区野川1-43-18 ☎213
●御殿場

■御タクレーシング
〒035(266)2611
山梨県東八代郡中道町白井673 ☎400-15

■ホリエ自動車株式会社
〒03(416)3325
東京都世田谷区喜多見7-32-1 ☎157

■ホリエ自動車株式会社
〒03(704)680140
東京都世田谷区等々力6-13-10 ☎158
●御殿場 ●多摩

■御タクレーシング
〒03(454)3541
東京都港区芝浦3-11-4 ☎108
●札幌 ●仙台 ●東京 ●北陸 ●大阪 ●福岡

